福寿会ｸﾞﾙｰﾌﾟ広報誌　「必要な時に、必要な人へ、必要なだけ、トータルにサービスを提供していく」

ふくみみ

67号　2022年2月

● 発行・編集担当：福寿会本部　● 発行所：医療法人社団福寿会　● 住所：〒123-0851足立区梅田7-32-6
● 電話：03-5681-0336　● ＦＡＸ：03-5681-8080

新年のご挨拶

皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたことと存じ上げます。

昨年は、コロナ禍で開催された東京オリンピックに沸いた年でありましたが、８月から９月にかけてデルタ株によるコロナ感染者が拡大急増し、日夜その対策に明け暮れする中において、１２月に入り漸く収束の兆しが見え始めた矢先に、海外において新たにオミクロン株のコロナウイルスが発生したとの報道があり、終息するには予断を許さない状況が今後も続くことを覚悟しなければなりません。

当法人におきましては、２年に及ぶコロナ対応の経験を基に、防疫の衛生管理をより強力に徹底してまいりましたが、それにも増して皆様方のご協力により、幸いにして当法人施設からコロナ発症者を出すことなく新年を迎えられたことにつきまして、厚く御礼申し上げる次第であります。

福寿会舎人病院においては、いち早くコロナ患者様の受け入れ病院として東京都に届け出をし、その治療に医師、看護師、スタッフ一丸となって奮闘努力して職責を果たしてまいりました。

また、福寿会足立東部病院においては、脳神経外科の充実化を図っており、これまで以上に救急医療に力を入れることで、福寿会グループの急性期医療を担う病院としての機能を高めてまいります。

本年２０２２年には、当法人の基幹病院としての（仮称）福寿会病院を開院し、グループ病院および施設の機能を連携させ、足立区民および近隣の皆様方に対して、より手厚い医療・介護サービスを提供できる法人として今後も不断の努力に勤めてまいる所存であります。

末尾ながら、旧年中に賜りましたご高配に深謝いたしますと共に、皆様方にとりまして本年もより良い年でありますことを祈念いたします。

理事長　福岡靖介

多井院長（慈英会病院）に感謝状が送られました。

西新井警察署長　金子登様（右）
慈英会病院　多井晃院長（左）

西新井警察署職員の新型コロナウィルスの検査を積極的に行ったことについて、西新井警察署から多井院長に感謝状が送られました。

「検査を実施してもらえたことで、職員が安全に職務を行うことができました」とのお話を、西新井警察署長　金子登様よりいただいたそうです。

多井院長はこれまでも、ご自身がコロナ感染することなく、多くの地域の方々の新型コロナウィルスの検査を行ってきました。

「地元に貢献したい」という多井院長の姿勢が、今回の感謝状につながったのではないでしょうか。

＜多井院長からの一言＞

『手の届く所にいる人、声の聞こえる処にいる人。その人達が困っているのなら安全について、身体の健康について助ける！警察官もチームメートですね。協力して地元を守っていきたいですね』

慈英会病院
〒123-0843　足立区西新井栄町2-8-6　TEL：03-3852-8377　FAX：03-3852-9894

事業所紹介～福寿会足立東部病院～

福寿会足立東部病院は、福寿会グループの急性期を担う病院としての体制を整えつつありますので、ご紹介をいたします。

★2021年10月より脳神経外科が診療開始となっています

脳神経外科では、主に、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）や、頭部外傷、脳腫瘍、水頭症などの患者様の治療をしています。
治療方法として、脳神経外科としては直視下手術、顕微鏡下手術、内視鏡手術などの手術療法を主としていますが、その他に内服や点滴、早期離床を進める為の急性期リハビリテーションといった様々な治療法を組み合わせて行っています。
今後、血管内治療が開始され、さらに幅広い治療が可能となります。

★第2手術室が完成しました

これまで１室で予定手術のみを運用してきた手術室ですが、今後も続く社会の高齢化に対応しつつ、急性期医療を展開するため、常に緊急対応できるように手術室を増設し２室体制を構築し、看護師の夜間待機体制を開始しました。高齢者に多い脳出血、脳梗塞、脳動脈瘤等の治療、転倒などによる外傷性脳出血、整形領域における外傷等の手術を昼夜を問わず開始しております。

★新棟の建設～今春にOPEN予定～

2022年春には新棟にアンギオ装置を導入し、脳血管内治療まで範囲を広げ、脳梗塞超急性期の血栓回収療法、破裂・未破裂脳動脈瘤等の診断および治療を行うことができるようになります。
また、MRI（磁気共鳴画像装置）も1.5テスラを新規導入し、現在より精密な画像診断を通し、治療をより確実にすることができます。
2022年4月から2次救急指定病院の認定を受け、中等症以上の患者様にも対応できるよう救急部門の設置ならびに24時間365日断らない医療を展開する為に、救急外来を拡張し、より救急医療を充実させ地域医療に貢献したいと考えております。

新しくなった手術室

アンギオ装置（血管撮影装置）

MRI（磁気共鳴画像装置）

～脳神経外科部長より～

朽名伸夫先生

福寿会足立東部病院、脳神経外科に赴任しました朽名です。
現在、脳神経外科救急疾患対応も可能とする為、救急患者受入を行いながら診療体制を整えております。その一環として、二次救急指定病院となるための条件を昨年１１月にクリアし、来年度、４月より二次救急指定病院として稼働していく予定となっております。
これに伴い、脳卒中A選定という、救急隊からの選定がなされるようになり、超急性期の脳卒中患者が多く搬送されてくるものと予測されます。当然、脳卒中以外の重症頭部外傷なども搬送が増えるため、手術室を含め、急ピッチで病院全体の準備を進めている途中であります。
春にはハイケアユニット（HCU）の稼働、夏までに脳卒中ケアユニット（SCU）の稼働も視野に入れ、今後更に充実した医療を提供していけるよう、脳神経外科一同努力していきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。